

主 浴 槽

泉質：ナトリウム-塩化物温泉 鉱泉分類：低張性弱アルカリ性冷鉱泉 ラドン含有量： 6.4×10^{-10} キュリー/kg

温泉成分の分析年月日：平成25年2月21日

登録分析機関の名称：財団法人広島県環境保健協会（登録番号：広島県第3号）

倉橋温泉（処理源泉）の成分（倉橋温泉の源泉を30～40%使用しています）

陽 イ オ ン				陰 イ オ ン				遊 離 成 分		
成 分	mg	mval	mval%	成 分	mg	mval	mval%	非解離成分	mg	mmol
リチウムイオン	1.50	0.22	0.39	フッ化物イオン	3.40	0.18	0.34	メタケイ酸	20.00	0.26
ナトリウムイオン	994.70	43.27	76.58	塩化物イオン	1471.00	41.49	77.68	メタリン酸	11.00	0.25
カリウムイオン	16.00	0.41	0.73	臭化物イオン	5.20	0.07	0.13	非解離成分計	31.00	0.51
アンモニウムイオン	0.60	0.03	0.05	硫酸イオン	157.60	3.28	6.14	ガス成分		
マグネシウムイオン	76.70	6.31	11.17	亜硝酸イオン	0.20	0.00	0.00	遊離炭酸	11.00	0.25
カルシウムイオン	124.90	6.23	11.03	硝酸イオン	1.90	0.03	0.06	ガス成分計	11.00	0.25
ストロンチウムイオン	1.20	0.03	0.05	炭酸水素イオン	509.70	8.35	15.63			
				リン酸イオン	0.30	0.01	0.02			
陽イオン計	1216.00	56.50	100.00	陰イオン計	2149.00	53.41	100.00	総 計	3.41 g	

適応症と禁忌症

適 応 症	禁 忌 症
浴 用 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病	浴 用 急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

浴用上の注意事項

- 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。その後は1日あたり2回ないし3回までとすること。
- 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
- 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴場反応）が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- 以上のほか。入浴には次の諸点について注意すること。
 - (ア)入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるに従って延長してもよい。
 - (イ)入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 - (ウ)入浴後は、身体に付着した温泉の成分を洗い流さない。（湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）
 - (エ)入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - (オ)次の疾患については、原則として高温浴（42℃以上）を禁忌とする。
 - イ) 高度の動脈硬化症
 - ロ) 高血圧症
 - ハ) 心臓病
 - (カ)熱い温泉に入るとめまい等をおこすことがあるので十分注意をする。
 - (キ)食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - (ク)飲酒しての入浴は特に注意する。

利用源泉に関する情報

源 泉	源 泉 名	倉橋温泉
	湧出形態・掘削深度	動力揚湯 1,650m
	源 泉 所 在 地	呉市倉橋町前宮ノ浦430-1
泉 質	泉 温・湧 出 量	25.7℃ ・ 77L/分
引 湯	引湯方法 ・ 距離	保温パイプにより約100m引湯

浴槽の温泉利用に関する情報

項 目	状 況	方 法 ・ 理 由 等
給 排 湯	循環装置	あり 衛生管理のため循環装置を通年使用しています
加 水	なし	処理源泉（倉橋温泉の源泉を30～40%使用しています）に更なる加水はありません。
加 温	あり	入浴に適した温度に保つため通年加温しています
入 替	入替頻度	営業毎日
	浴槽温度	約41.5℃ 休館日に塩素系薬剤で浴槽と付属の配管を洗浄しています
添 飲 加 用	入 浴 剤	なし 入浴剤は一切加えていません
	消 毒	あり 衛生管理のため塩素系薬剤を通年使用しています
	飲 用	不適 浴槽湯口のお湯は飲用できません